

### 「動物を通じての国際交流」

昭和44年、当時、鴨池動物園の敷地が手狭になったことから、3月議会で300万円の移転調査費が可決されました。その後平川町五位野地区を移転先に決定し、47年10月14日に平川動物公園が開園しました。

開園以降、動物を介しての国際交流が盛んに行われるようになり、48年度にオーストラリアのパース市からオオカンガルー、49年度にペルーからアメリカンバクやカピバラ、50年度には同じくペルーからラマや、日本で初めて輸入が許可されたアルパカなどが国際親善の動物使節として仲間入りをしました。市議会ではこうした動きに応えるため、この間にも趣向を凝らした企画、PRなどについて当局に努力を促し、将来の施設拡充に伴う管理運営体制の確立を要望してきました。

57年度からはコアラ誘致に取り組み、導入準備が整った59・60年にオーストラリアのクイーンズランド州からコアラが来園し、61年

には赤ちゃんが誕生しました。

市議会では、57年第1回定例会でオーストラリア政府のコアラ輸出の条件の一つであるユーカリの植栽計画についての議論が交わされ、「動物園の隣接平たん地にユーカリの森を造る計画はないか」との質疑があり、翌年10月にはユーカリ9種類8200本を錦江湾公園に植栽しています。

コアラ人気は入園者数に大きく影響し、コアラ来園前の年間入園者数は49万人台から52万人台でしたが、59年度は一挙に82万5千人となり、翌年度には90万人を突破しました。



コアラ一般公開セレモニー